

●財政調整基金積立金 1億3941万4千円	●秋田県町村電算システム 233万6千円	●共同事業組合負担金 社会保障・税番号制度システム、子どものための教育・保育事業に伴うシステム改修分の負担金です。 ム改修分の負担金です。
●地域センター解体工事 4997万1千円	●空き家解体撤去工事 485万円	●予納金 140万円



平成27年度において、入札不調となった間伐材
(五反沢字多々羅沢)

●村道補修工事 △3916万4千円	●道路除排雪委託料 (訴訟和解金) 300万円	●地域センター設置条例の 一部改正 建設業者が、村に対し除雪委託料409万5019円の支払いを求めた訴訟について、村が300万円支払うこととで、平成28年7月14日、和解が成立しました。
----------------------	-------------------------------	---

●沖田面地区統合簡易水道 送配水管布設等工事請負契約の締結 指名競争入札により、山二施設工業株式会社(秋田市)と8683万2千円で契約を締結するものです。

一般会計

平成28年度補正予算 空き家対策 関連予算を 計上

平成28年度一般会計補正予算は、1億6807万1千円を追加し、予算の総額は25億7669万4千円になりました。

歳入の主なものは、地方交付税や村債などの増によるものです。

歳出の主な内容は、次のとあります。

らう必要があり、その報酬分として納めます。

●トレーニングルーム改修工事
115万8千円

●ごみ処理委託料
△730万8千円
北秋田市クリーンリサイクルセンターへ委託。ごみの搬入実績によるものです。

●地域センター体育館改修工事
298万6千円

●旧給食センター解体工事
△1571万4千円

●造材事業委託料
1483万5千円

●地すべり調査委託料
266万8千円

●道路除排雪委託料
(訴訟和解金)
300万円

●地域センター設置条例の
一部改正
建設業者が、村に対し除雪委託料409万5019円の支払いを求めた訴訟について、村が300万円支払うこととで、平成28年7月14日、和解が成立しました。

●特別会計補正予算は、5つの特別会計で総額1659万1千円を追加。補正後の総額を17億9954万3千円となりました。

特別会計

条例改正・契約関係 3議案

●犯罪被害者等支援条例の一部改正 犯罪被害者等へ見舞金の支給を行うため改正するものです。
●地域センター設置条例の一部改正 地域センターの解体により改正するものです。

質問

保育園の新築・臨時職員の待遇改善・完全給食導入の考えは

村長



【大城戸ツヤ子議員】

住民のニーズとサービスを念頭に施設等運営改善プロジェクトチームで検討

ご飯持参であるが、「ご飯が冷たい」という保護者の声がある。完全給食の実施は如何か。

する。

③主食の持参は、保育所運営費国庫負担金の算定基準にある給食材料費に3歳以上児の主食が含まれていな

村長 ①かみこあに保育園は昭和54年12月の建設で、平成14年度に大規模改修を実施している。施設整備にあつては、施設の建設時期、場所、規模や財源、他の公共施設とのバランスや維持管理費など、総合的な観点からの対応が必要となる。

②これまで、園児の減少や統合等に対応するため、正職員の採用を控えてきた経緯がある。今後は住民のニーズとサービスの向上を念頭に、村が直接運営するのか、民営化や業務委託等のメリット・デメリットを「上

大城戸議員 3月定例会で保育園の運営については、今後、プロジェクトチームを立ち上げ、杉風荘の民営化と併せて検討していくないと答弁しているが、それから半年、村長の考えは。①保育園新築は考えてないのか。一生懸命努力する人が報われる村政をめざすと言うが、臨時職員の待遇は。③3歳以上児は副食給食で

村長 もう少し時間をいただき、調査させてもらいたい。

【大城戸議員】

完全給食対象園児は約20名で年間20万円程度。あたたかいご飯を食べさせたい。もう一度検討してもらいたい。

観光産業の姿勢

村長 同様の行事として平成15年度まで、集落対抗として「村民体育祭」を開催していた。しかしながら、選手の確保や応援する方が減ったことが要因で取りやめられた経緯がある。レクリエーション大会や交流会の組み合わせも考慮し、集落会長などの意見を聞き検討したい。

【大城戸議員】

村では地域の観光振興に取り組むため、DMO、観光地域づくり推進法人に加入したが、天然秋田杉の生息地だけでは観光につながらない。

①南沢集落には「素晴らしい景観」と「元気ムラ」が

活力ある村づくり

【大城戸議員】

過疎地域にも

何かわらず、芸術の村とし何とかして活性化しなければ

①南沢集落では「元気ムラ」活動に積極的に取り組んでおり、毎年、東成瀬村の椿台地域と重箱交流を実施。村としても積極的に支援し、他集落にもその

ある。この地区を観光スポットにするべきでは。

②村の築堤周辺に桜の植樹は。



ご飯を持参して給食を楽しむ園児たち

質問

圃場の大区画化

実現に向けた補助政策は

農地交換分合を図り検討 農家の意欲に期待



【齊藤鉄子議員】

農業振興

齊藤議員 新聞報道によると、安倍政権では16年度の2次補正予算案で、TPP対策と土地改良拡充などに大幅な予算が盛られ、閣議決定となつた。村長は、昨年、一般質問した際認定農業者及び各水利組合長を対象とした農地利用情報交換会を開き、作業効率を高めるため農地を集約し、区画の拡大や圃場整備によつて余剩能力を水稻以外の作物

物などに投下することによつて所得の向上を目指したい。農家の意向調査をしながら対応したいと答弁している。

①農地の維持や担い手が耕作しやすい環境づくりのため、地主の負担が伴う大規模圃場整備に対し、村で補助したら実現しやすいと思うが如何か。

②農産品のブランド化を以前から提言しているが、その後、どう進展しているのか。

①TPP関連では、農業用機械・施設の導入支援、スレバーレ資金の実質無利子化枠の拡大と無担保・無保証人化の措置。土地改良関係では、農地の大区画化や排水対策、パイプライン化、地下かんがい施設等

の基盤整備など、国・県が事業主体として実施する内容になつてはいる。農地を農地中間管理機構に貸付した場合、生前一括贈与税の猶予が継続されることになつたため、積極的に利用権設定を進めていきたい。各圃場で一定以上の面積を確保後、農地耕作条件改善事業により畦畔除去・暗渠排水・水路の管路化等を推進し、農作業の効率化を図りたい。

②村の「あきたこまち」が昨年、天皇陛下に献上された。また、全農秋田の食味コンテストで、最優秀賞に輝いた。この米や食用ほおづき等を利用した加工品などをブランド化し、輸出等も念頭に検討したい。議員もご存知のとおり、ブランド化というものは大変難しい。そのため農地を集約し、区画の拡大や圃場整備によつて余剩能力を水稻以外の作物

村長 大規模圃場整備の負担はないと思つていたので、認識不足であつた。交換分合して換地を行い、中間管理機構を通せば、ある程度負担がなくなるという認識であつた。少し整理し、それから検討させていただきたい。また、ブランド化の核になるのは農家だと思う。やるという人を応援していくといふべきだ。ブランド化、大区画の整備によつて水利組合など整備したらどうか。

齊藤議員 道の周辺には立派な野外ステージ、遊具などが設置されているが、さらには集客を図るため、グランドゴルフ場や観光農園など整備したらどうか。

道の駅の観光拠点

齊藤議員

中間管理機構を利用した場合、少ない負担

なると危惧され、圃場整備は農家の負担になるので、少しでも村で補助できないものか。また、ブランド化が難しいことは分かるが、実際に売り出している所があるので、働きかけをお願いしたい。



平成28年産米の買い入れ検査（初検査は9月20日）

質問

山林で雇用創出をめざしているが 小規模企業誘致も必要では

村長



【伊藤敏夫議員】

核となる林業を復活させ 関連事業を増やしたい

雇用の場、誘致活動の推進

伊藤議員

村は近々「山林活用で雇用に向けた事業展開を推進する」としているが、村の現状を踏まえれば、山林関係雇用のみならず、小規模企業も推進するべきだと思うが、今後の働く場について、どのように考えているのか。

村長

これまで多くの方が山の仕事に拘わってきた歴史がある。来年度中には、

村が経営する約2000haの村有林、その内1500haが杉ということで村有林の経営計画を策定する予定である。例えば毎年15haを伐採し、植栽するサイクルを基本にして、植栽後の下刈、除伐、間伐の仕事を安定期に生み出す100年計画を検討するものである。100年後には、毎年、100年生の杉を生産することができるようになり、雇用が拡大し、林業が復活する。森林認証やバイオマスエネルギーの活用により、木材に関連する仕事も増え、雇用環境も改善されると思う。また、集住型宿泊交流施設の機能として企業向けのレンタルルーム、レワーク事業なども視野に入れ、引き続き誘致活動を

推進していきたい。

伊藤議員

木材関連だけの仕事で雇用環境が改善できるというものではないと思う。そこには、男性、女性の雇用の割合なども精査する必要があるので。今の答弁だと、木材関連の雇用が増えて、働く場所が完璧になるように聞き取れたが、

そうではなく、村出身者で事業を興している人もいるので、同級生や知人を通して信頼関係を築きながら、小規模な工場誘致も必要ではないかと思うが如何か。

村長

①受け入れてくださる方に対して、本当に有り難く思っている。このフレールドスタディプログラムは、自ら課題を設定し、答えを導き出し、解決に向け行動する人材づくりをねらいに、産学連携を目標としている。滞在の日程は2泊の民泊が組まれており、広報等で受け入れ家庭を募集しているが、応募する家庭が少なく、今後も民泊先確保が課題だと思う。

村長

地方創生事業で、若い人が生活しやすいような環境整備を進めていきたい。林業一本で生活が出来るということは考えていないが、例えばバイオマス事業でチ

ップ工場や発電設備、製材所などいろいろな関連事業が増えるので、少し核になるものを進めていきたい。

成している。民泊先には、学生の食材代として1日1800円を支払っている。民泊先を組織化して、学生の受け入れに対応できる体制を検討したい。

武藏野大学生との交流継続

伊藤議員

3年前から実施してきた武藏野大学生と村民との交流は、地域から大変喜ばれおり、今年まで145名の学生が来村して

いるが、多くの学生が、民泊先を組織化して、学生の受け入れに対応できる体制を検討したい。

①交流にあたっての問題点。
②経費面や村民の協力体制に要望等あるのか。
③KAMIプロ・リストとの関連は。

村長

①受け入れてくださる方に対して、本当に有り難く思っている。このフレールドスタディプログラムは、自ら課題を設定し、答えを導き出し、解決に向け行動する人材づくりをねらいに、産学連携を目標としている。滞在の日程は2泊の民泊が組まれており、広報等で受け入れ家庭を募集しているが、応募する家庭が少なく、今後も民泊先確保が課題だと思う。

上小阿仁村議会だより 平成28年11月10日 (10)



武藏野大学生たちによる体験発表

議会の動き

第6回

議員全員協議会

8月19日(金)

協議案件

- ・特別養護老人ホーム杉風荘の民営化について
- ・除雪における委託料等請求事件について
- ・集住型宿泊交流施設について

民営化は賛成だが
財産処分の説明不十分

杉風荘の民営化の時期を
来年4月1日とし、公募型
プロポーザル方式で譲渡先
を選定したいとの説明があ
りました。

しかし、無償譲渡する備
品をはじめ、公有財産の處
分方法、施設の管理区分の
資料・説明が不十分であつ
たため、9月定例会の会期

中に再協議することになり
ました。

議会側からは、民営化に
伴う職員の処遇や施設利
用者に対する説明が不十分
だ」「財産処分に伴う資料
が示されていない」などと
意見が出されました。

第7回

議員全員協議会

9月12日(月)

協議案件

- ・特別養護老人ホーム杉風荘の民営化について

プロポーザル方式で
移管先を公募

杉風荘の民営化にあたり、
社会福祉法人の候補者を、
プロポーザル方式で公募す
る予定です。



杉風荘の施設の現状について、施設長から説明を受ける

高知県・梼原町議会が来局

9月27日(火)



議会運営について意見を交わした



田瀬ダムの監視設備について説明を受ける

(11) 上小阿仁村議会だより 第159号

と議会運営上のメリット・
デメリットについて意見を
交わしました。

小阿仁川水系対策委員会

10月12日(水)～13日(木)

梼原町議会では、2つの
常任委員会があることから、
1つの委員会で運営する類似
自治体として本議会を調査。
「議案審査等、全議員が内容を把握できる反面、委員長報告に対する質疑が出ない」「本会議での議論が低調になるのでは」など

村議会と北秋田市議会で構成する小阿仁川水系対策委員会の視察調査が行われました。岩手県奥州市の胆沢ダムと花巻市の田瀬ダムの施設を見学し、ダム建設までの経緯や、下流域の環境変化について調査しました。

今後の定例会日程予定表

区分	会議名	開催年月日	曜日	会期
12月定例会	議会運営委員会	平成28年12月6日	火	3日
	開会	平成28年12月13日	火	
	閉会	平成28年12月15日	木	



交通事故撲滅を願い村民に呼びかけたパレード

交通事故をなくそう
交通安全パレード
で呼びかけ

平成28年秋の全国交通安全運動が始まりました。9月21日、北秋田地区交通安全協会上小阿仁支部の会員や交通指導隊らが交通安全パレードを行い、村民に交通事故防止を呼びかけました。秋田県では「子どもと高齢者の交通事故防止」を基準に、「夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車利用中の交通事故防止」「横断歩行者の交差点のシートベルト着用」「飲酒運転の根絶」を重点目標としている。また、シートベルトの正しい使用などを重点目標としています。



上ノ岱スポーツエリア入口付近

国道285号の走行安全のため、車線内側にあるドットライン（※1）などを施工し、交通事故防止に努めてきましたが、このほど、音と振動を発生させる溝・ランブルストリップス（※2）が施されました。

また、「速度落とせ」などと書かれた注意喚起の看板も同区間11箇所に設置され、ドライバーへ注意を促しております。

（※1）ドットラインは、車線を狭く感じさせる視覚効果があり、実際に車の速度は落ちて、追突事故防止につながっています。

（※2）ランブルストリップスとは、舗装路面を削り、カマボコ状の凹型を連続して配置することにより、その上を通過する車両に対し不快な振動や音を発生させ、ドライバーに車線を逸脱したことを警告する交通事故対策です。中央分離帯などの設置費用に対し安価なことや、維持管理費用もかからないことから、北海道内国道において導入が進んでいます。

議会を傍聴してみませんか

どなたでも傍聴することができます

次回の定例会は12月13日開会予定です。9月定例本会議の傍聴者は9人でした。

委員長 北林 義高
副委員長 伊藤 大城戸ツヤ子
委員 伊藤 秀明
武石 敏夫
辰久

編集委員

（北林記）

田んぼの稲もなくなり、寒さも増してまいりました。今年の新米の味はいかがでしたでしょうか。今年の作柄は平年並みのようです。これからは1日ごとに寒くなり、家に閉じこもつて過ごすことが多くなります。体を動かすことが少なくて、運動不足になりがちですが、雪が降ると嫌でも除雪をしなければなりません。

今年度の予算で、ほとんどの集落に除雪機械の貸与が終わります。除雪が大変な方は、集落にお願いするなどして、安全で安心な冬をお過ごしください。維持管理する集落の皆さんも大変だと思いますが、対応をお願いいたします。

編集後記